13
1622
54

宮内省圖書寮

風流宇治軍談　付り寶劍の威光八黄金ニ増る山吹の縁

第一　目録

文之巻

是いなの殿中寵愛なるふ君を其比

元揚巻とも

大わらわ　一本　さくる傘屋の娘が仕業

らくを押て小ゆび

一振の剱よ二人がゑし

へ13特
1622
3

第二　芝地とゐなかの高地づく
外面仏者門伝い修行せしもの
ゑびす神〻伝の女どもを立て懐中後
墨のないを伝を屋内方乃修べ為

第三　其ゝ白絹と麻と源氏解之昌
宇治川の者ハ武者に劇音乃勢
仏のいさむ言葉て来る使合ハ法風
清水川流者に行る方民の段姫人和之

一　是い先の長出家あるべき不者生れ
れ仏堂に用ゐ金而のるい古いお婆ゞ強まにつゝへて傾城
程女と女房よ拾ゝ手ゝ仏才一世学問拾ゝ遍ゝ修ゝ
のゝ小踊く百乃後よ法ゝれば一巻者よ一ゝいゝ者みゝ
すゝでゝ所ゝのいゝゝきゝ者ゝ者ゝよ邪戸をする事ゝいゝ
ゆゝれゝいゝ入ゝてゝいゝるゝのゝわゝるゝけゝとゝゝゝゝゝゆゝゝゝゝゝ
別代ゆゝゝくゝいゝ法ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝゝ奥者ゝ。又地女房の千ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

けてくる。公屋。あつとれ別女性にしてわるまい女。亀屋独言よ
紙屋をとてあとを。手さきのお耳にかけて。四条のえちかがいりし
ひてめぐけいせつを。ものれてこきこれ。ちゑけさくいつそいぐんだ屋
きぞのくんとれしこ。公のゆれこ。系ありそ。その衣いたん亀つ。
伊のかく神まつかいそ。ゆる彩ろいづくへ。根屋れがえへ
ちそ。大坂の女中。蛾のゆくごくん浜出。京のおやさへ人を
けらせこ。たきれさてぐゆんきろちとそのぐこ。
お待の根がえへ下屋。ちづくいまれ下。亀屋
し家をわけお。公彼のうへゆれ。こ彼年の高屋こ。かうへ
のつさいうとわしが。四ぐ。ん病ままおりう。ねね乃酒しまいうど。
ちかぐちて。紀ぶいきうれ。ぐのうへこ。ぶる女中と黄の系
りうれでのういさ。小れのた屋のおまづひとい。名別下早た祖

とそこのねれさふ〜ひたかるくちをドれ。ぶ出の華流ふん
せてし。肾虚のかえくそいある海ーこ。ぴ和湯ろうれくそうそ
おー熱いさあるるーて。そろく枝よとろて。衣歩とあるきかるく
ぐふるれるれいぐやのぐとかうそ。ゆやとわ〜。ふの井ぐくく
わぐぴるんきてかくてしまあぐゆりいせわりこいら〜ま。ろる亜へ。
特尾のたゆ手ぐ。角ぐ今は玄関へ。十二せるきしげるひすあが。
又条坂乃筆屋ろう手ろ海ーふぶさびのふ蓋れのお好しい。
ふの鍋でいさるーふそ。ふ細ふそ唐祢のおるーりそしとそのまく
殺とろれるくは徒ぐとろそそ。入退付は手色ありとふ子。
唐屋のるのいこるくこにそ。ゆ和みけもべゆむ。ぐんおろ〜せりそ
手れく親ふそいかさんそろは移さ〜ーしるう〜ーりそまるーが。
いぐ仕るぐきやこうぐひとせいふ豆ゆ石。やさろは移ひ

ひえろふ
いれ出なされ
ませ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はずされて西の方へとしいだされたる生ぶのちとところ〳〵の
神の名をいとはやくろきさまをもくのるあるべくはたゝかひてさる
くらいめを大分あつさ醫者は薬をとりてさるべき神のあらとく
いつもひへ医者にたいしてづそれいくもあるそよ所の神社の風
呂今海へ流しどと修屋者の屋敷へ行かれたの和歌乃あれこそ宝
鄉より王の風とあるそれそいに二方あに〳〵の〳〵鄉より王といひて
日本に一振の名風神祭あて者共のおくに三所でおく物く
とてひとあるこあて紙せさといのうそれよりはよ流〳〵う一重ぶの井
おのよう流るあ山大仏なる宝風と一ぐんの女よりうづもう流〳〵つ
いうるくへ平名のもりそづ〳〵山風をおもうは修〳〵ゆ〳〵に別面
〳〵歩よおらとしりべ〳〵ひてるはおうひと行かれくさ見ごと
いひそれいべ〳〵あもくきちが今ちりうんら風と拾まて指し

つれぶらは修まへ事見ごと行われば指も言ひあらそこの井
よしひそ〳〵女中まけまちろいで拾あるて利ひで地で神に西
歩のかべよゆうるひそあるべゆ〳〵ひのうい女のつひいあき
らいかさろ〳〵はるよ山神和とれあるふいぶまで修せざる女の役そち
いまるや男の肌いよ二百人ちうけさたこれのまて女さる所の
わるいう西て山風のそいあるべうてたなるぶまくちるし宝風
あそこいてきおいて女ドさうんとするとそれまちやひろ〳〵どの
ひすあご神のまけいまるあ分〳〵ふ所風いまあるべ拾かしそれい指
てよはあれ〳〵やう山まれいひ方勢の女中れはでうづ〳〵と男の肌
をそ六百人ふれてうあこどれのまて女どやし恵あ分て船〳〵されい。
女の一分拾さそ。礼をいくぎすにくさるべ〳〵やりくの男に肌ふれさと。
そちいどうでうてで。平安の方れ方生れのおそでにいたこれ

のちさ女ごろやづくすると沙汰みそい色についてあくあくあふぬ房
をきまでの所等ゑれべ山面目とすぐせ孫ば出風しけさあそちも
くさあざあ肌ふれさ沈抱と出中。元を新てらくろれいず、肌
教ふれさいふいやれ。君のおくあわくくこて。春あへの初紀乃
うるふさ侍でけさちうこい。春祥いすらちんおまへまでのふまこみ
なるぐそれでもとあてくさあ寄。こてやうふ豊れば初紀い魔
ぐけておまへの病いおくるまひお兎心ゆくいふをきぬれ山乃井
邪テするか。あの指ぐいつ色う。祇のつくひい男公とちくぬ女ぐつくむ
ふくう。春祥ふれおくくみぐ行孫ちうそちいみいいく男のくけちう
ねくいぬ山ふ豊ひくぶいくちあ人教宝風いひ子あよりを。そちは
山ふ豊ぐ名作くくてつまでそちは行ぬ指よ新面ーぬ指ぐにちぐひ
うくぬ山後よ仕うやあに指よくゆくてふれりーあのくれぐぬ地ニ

らふいあくふ何そちぐあくふにくーふくる何い海ぐ俳をいく
さんくふい出せ一俗も多ふ先えい初紀成のけぐちうれば稽俳う
作うも。寄うにいくをくて多ある大初の中色りどひくくきれぐく
あぐくも山の井へお作をりおまへと色さあ寄くくつれぐそい指い
おくゆぐんさぐ出風と稽くにちくゆぐうくさやくくあうれの。
ふ寄あうりへまぐ出いくうり

二　色非とうくねぬ女のいぢけく

指い出風を寄くて。ふ寄祇寄へゆくくちにちつれぐちくう山の井
をくぐくてあげんくく山とくぐれぐくく山の井へ入逃あべ風くちんと
いぐけ。ふぐひよ山くゆぐんせくいべふけくくくせどちうれくせどそ
うくあ面似春門公あふへよひくくゆくくあ山て初ちくふ寄
の町くくちうれく邪。作うくて出々れべ指山寄一ゆくくう山乃井い

はは御とうむりんさあ。若子代といふ名ゆあるこめ。ふ豊につゆゆる身。
おうくりれをゞ又のゞすゆゞ。老ゆでに仕ゆめせるけうこと。若
子代かてうれんいかいゆたるゆ雨後家て若子代をうてすて。
重綱及へは御とうとゞおぐくまねく無べと。多かきいあわと先ま
人なのさおとうんとゆ。綱ゆる御とねいて若子代をきんんすゆ。若る
代い源綱かて。ふてさのおよあいざれば。ゆてこのおうさは移ゞ格と
ゆるゞしのくよいいうべは御れるゆめさうゞ。乃てそうゞひとるゞと。
ふゞふゆうゆゞけゞ。ゆゆひてよくゞれとくんくするに神ゞうさ。
そくゆゆよゞうくとゞろさんといゆゆあゞゆていさうひと
きゆよゆうてきくるくのゆゆふくゞくゞそれよい格よあり。て御ゆゆ
てくゞゆをうゆくさんゆうくゆゆ乃ゞ移ゆんゆ信牧の古み
ゆゆ。源ゆま重綱の妻子代といふる領地ゆるゞゆ。その古御い源

家の家人家来のあることゆあるものあすこ出てゆゆ男公（義家）ゆへを
ゆうくとれゆ。ふてゞび牧御のゆ家へおうゆをんと重綱へのゆ申し。
一途によんひうんでゆうゆの申にゆをてて。和の男といゆてこの妻い
こゆゞゆゆ男のゆは御とんをうゆてゞふ。貞女乃乃と部結んゆて破つて。
あのゆゆ妻よ肌とおゆをてうてゆひゞゆその牛男ひてくゆて。そゆて
は御おさゆうていゆゆうんとゆゆゞてゆくゆ女のゆと破つるゆをうひ
なくて重綱及へまのつ妻うゆゞゆけられゆゆ女いあひくゆゞいゆう。
貞女のゆとてをひいてゆうゆた。御とれゆてゆくれゆ男のくゆゞやと男
を捨てゞ。ゆ紙はゆゆたゆゞゆ。ゆゞんゆゆ。ゆゞひんゆゆゆゞ。ゆゞ御ゆゆゆ
ゆゆてくゞゆゆうゆていい牧御及ゆいゆるゆゆ。れゆうくゞゆの格ゆ
さゆ古ゆん。ゆれゆゆ見ゞは御をゆゆてゆんくさくゞいゆゆてくゞ
うゞひゆんくゆゆてゆくのいさうひゞゆ。ゆ格いゆるゆてくゞまく

せこの中納言にさん。参堂にまいりてゝ。ぞくあらせ給へば。
山ゝとゝのゝしりあへり。ゆゑ。いかゝ。をれ。をれ。
をれ。ゆるあげ。と。と。ぞくふ。はゝ。をれ。ぞつゝ。
の中にさん。参堂ふ下ひもとゞず。えてゞざつゝ。貞女のゐとゝ。
参堂ゞのゝゝあゆゝよ。ゝゝ。ゝゝ。へはゝゝ。邑。ゐゞゞ。いゝゝゝ。ゝゞ
身のゝゞゞゝゝゝ

くろがねさいぜんうさぎとぶとてとせーいは紙かへゆ
ゆきとゆのあぐらに祝ひがいづれのもあるまうてもまた
さるへ納しいがうろふ及ばるるが兵一刀もしそなたとまうれ身
へへ下に安堵させ給せんつぎはたばこよりお供仕うたんこ伝へ乃及
のおあうこへあびと嬉嬉へいあれよりへうておまつせとぐーと紙
思いよは紙とおせへくぐてあぐひのをの条のひとぐれとけて云乃
つるぐるてうちが浦遍に厨こ初へとの絹糸いたで堅おの後医

三

さうに白うく紙うびす婦氏都西昌
千とのの紙も蝶完ようぐつくあくひうる金のこれはひうんのるが平
あへれきうへ門立紙社へ金合あるけやが色立いぼこ伝ひ
うちぬあむ初いこのれめのとうよ立糸刺表宗伝すーでへ初へし
あうしよのくあうれーいうぬとこれのひて後

元来ひ紙りうれうこ初へ立糸刺表があれてありしゆへふふ
伝をあれ浦のでは紙のゆさおとあるうのあるーぬ魚つかが
あるこれてうどひうぬーれ紙がおを仕ふてそれがと鯨さかうを
あるこぬあるとぐはがと高くはあれてうびく金後よあひあ後
りとうり腹痛オ二のるれとうひぬすはは後のるぬーすべさこ元
人とうんゆきびうひて伝をを色あるびとぬ紙紙海云あるはるてぬを
か伝ぐてあるはるーて伝家後の何ぬへ紙のけるーと巻紙
ようふうるとうひうあるるとせあるとはるく紙家さんぬるひるは
後紙のるとにうるのてあるられあこ伝入及来のるれあるるるうぬ
ゆえ分らるるやうるや唱鏡とめるされ先元をこ弄ちへは仕ーるのく
べ紙い後元へ及てくるのおるるるは紙異ーてあるべるぬ紙と
伝分られ人いこるるる金ーべいうぬるるるるいるぬ

きつかあるんだ。ぼれとつて秘蔵の山笛紙もつて。方々をとわそで。
おくしけるを。唱競まつて。山耳もくつろそたの弟とさくやきよて。
ひそくふ三井さくお供仕りとぞ。ゆよ長きせなり。山田の女房
物まそすうごくにやうを。唱競しまつの待に者とく。
うあくうそて。裏の山門より。ちのびゆうて出させうふと。山田のうれた
ゆあてもちくびて。又例のもいあどもうあれいおそ。ハとそうる
みて宵ほどの物を。後合しに来る事ぞ。咲まぞゆうろ申ぞ。出だい
ものよあつまつ。れあつあれ。右さかるこ紙ぐつのあ。れ物まりにちうて。
ちうこ紙おてあるを。十七八ちうこあひゆうちう女房。こす長うづさ山
ぐらいをまつ。を長の射を。右をこの伝達ぐのよおひうくこと。舎尺
しそ中はまべらいあて。夢ゆうろ若ぐもゆれ伝とが。山田ぐこの女房こと
うるぐ男ちくよそ。ぼうを仕ぐあ。ゆなぐいふ。お伝よあさあ。さそこと

えうるまりの紙いつ何ものくうぐ。ちうそ。わちとゆうゆ。
連ようんであるを。山次のうれかうこせべをとびをせ川合を。
の射笑えるけをバいづくこうあ。れ物の見いそれぐとおうろひそこと
というれいぐづくハ。ゆうう唱ぐひまあ。がうんとものうそいが。ちびい
射紙のうちまて。面をの。ちの。ちこ。まゆのひとびのさうるをを
いくこ。その長ゆあいう仕ちるうくいとこいあよ。ちこ。ちるのあくこれ
紙合いくさこ。けくゆとの間よ。貴紙ちうくうるくさむくゆうれくつさ。
ふさぐ。ゆううゆうぐ。ちうハ。ロせぐ。一段まゆのひまびの。ちこ伝る
うくゆ。ぐれるくいゆくづくハ。楼ちうせれ。四ちうゆうれ
うくれ。ゆそ。ふさび。化山笛。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆうぐ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
又又唱ぐのゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

元日ハ
ちうきうと
くらす
わまの
そうさ
くこ
ゑびわぎ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

るをれいぞ。あるこ人はあるこ。寒らう〳〵。体ひ奥へつまり行。さき出い。ぼ
男とも。ゑの色。人〳〵河い。字ゑ字の。ほ。あ。ぞ。ち。が。か。ゝ。切。ま。紙の
小神とき。そ。行。貝の。妙。貝。の。と。尾。ゑ。い。行。あ。ぞ。ま。る。ぼ。ぞ。の。ゝ。ぞ。
ぞ。ひ。さ。ら。の。ま。も。す。わ。ま。ぞ。男。ぞ。ら。ひ。と。す。る。紙。ま。て。い。ま。ま。て。ら
ま。て。ま。ゑ。男。ぞ。ん。と。て。ま。ま。ゑ。ぞ。ん。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。先。体。て。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

おさ[illegible]人よりは落ちるあつて世に事色とゞれずこれよりて軟弱の
[illegible]の色へれへあり。平家と戦ひありもろ。平家逆つくゝて
[illegible]よ。すうち。軟弱なる自害ゝ果のひなるもるに。扇のあり
[illegible]ゝ。平家[illegible]ゝ。扇の志ゞと。平家[illegible]ゝ。[illegible]
[illegible]ゝ。源氏一統の時代と[illegible]ゝ。万葉[illegible]久の間ゞ目出度

後德丸一代記 ひらがな八五冊

後德丸一生日本の武人を吉外國と天竺もの渡り[illegible]仲光夫婦が忠臣後德丸天竺る西門に地ひて系治の人ゝ[illegible]ゝ。

換若丸一代記 ひらがな八五冊

松若換若兄弟乃ゝを生ゝ母[illegible]女天狗ゝ[illegible]をひとゝ兄松若をゝ[illegible]乃中来[illegible]ゝ。

愛護若一代記 ひらがな八五冊

[illegible]の若一生涯妻細ゝ[illegible]ゝ。絶母ゝ[illegible]乃ゝ姫の[illegible]の[illegible]梨志賀[illegible]乃ゝ[illegible]の因縁をいさ。

みをぢくし 小本一冊

大友彰明細工の書

[illegible]の中来名不而[illegible]来歴[illegible]天[illegible]刹[illegible]老女[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

女五常訓　一冊

婦人手紙庫　一冊

花筏百首　六冊

源氏物語　二冊

源氏物語　二冊

源氏物語　二